

★中立の原則を堅持したASEAN＝シンガポール「聯合早報」

シンガポールの華字紙「聯合早報」（電子版）は8月7日、八月初旬にシンガポールで開かれた東南アジア諸国連合（ASEAN）外相・関連会議について「ASEANの中心的な地位は、長い間そうであったようにますます新しくなった」と題する社説を掲載しました。その要旨を紹介します。（宮崎清明）

世界がグローバル化し、政治が変化するなかでASEANの中心的な地位は、新たな生命力を発揮している。先週のASEAN外相会議では、米中貿易「戦争」や中国の「一帯一路」戦略、日本、オーストラリア、インドが競って協力の対象にしようとする（インド太平洋戦略）など政治情勢が激しく変化するなかで、ASEANは一貫して中立の原則を堅持した。ASEAN中心の前提は、大国との対話とパートナーシップを尊重することだ。

ポンペオ米 국무長官は、ASEANが地域の枠組みの中で核心的役割を果たすことに支持を表明した。中国とASEANは、南シナ海行動規範（COC）についての交渉草案に合意した。ASEANは大国が対立的なゲームに巻き込むのを防いでいる。ASEANの地位が不確実性に直面しているなかで、ASEANの独立自主、不偏であることに細心の注意を払う中立という正確な立場が証明された。これは、ASEANが持つパートナーの長期的利益、地域の開放、平和、安定に値するだろう。（了）

★ASEANの次の段階のための準備＝ニュー・ストレーツ・タイムズ

マレーシアの英字紙ニュー・ストレーツ・タイムズ8月8日付は、東南アジア諸国連合（ASEAN）創設51周年にあたって「ASEANの次の段階のために準備する」と題する論評記事を掲載しました。筆者は、マレーシア外務省ASEAN・マレーシア局のアハマド・ロザイン事務局長。以下はその要旨です。（同）

1967年8月8日に、5カ国（マレーシア、インドネシア、フィリピン、シンガポール、タイの）ASEAN宣言に調印した。ASEANは、騒々しい時期、冷戦を背景に、植民地化の後に創設された。不確実性と紛争に傷ついていた。紛争が最も高まっていた時に、ASEANは平和と安全保障、安定、繁栄をこの地にもたらすために作られた。2015年、マレーシアが議長国の時にASEAN共同体が作られ、それが、ASEANの新時代を書き留めた。共同体は、6億3500万人の生活と福祉に積極的な変化をもたらした。それは、政治的安定と公平な経済を前提としている。ASEANは、地域協力の枠組みを発展させる推進力となっている。ASEANプラス3（日本、中国、韓国）、東アジア首脳会議

(E A S)、ASEAN 地域フォーラム (A R F)、東南アジア非核地帯条約、東南アジア友好協力条約 (TAC) を創り出している。この機構は、ユニークで包摂的であり、微妙で相互に象徴的な利益を討議する。北朝鮮や韓国と席をともにして共通の利益に関係する政治や安全保障の問題について討議する。ASEAN2025 は、「国民中心の ASEAN」となるだろう。(了)